

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	唐津市立七山小中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度より県の英語教育の研究指定を受け、「国際理解」を大きなテーマとして小中ともに校内研究に取り組んできた。小学校においては、全職員の授業公開、講師を招いての授業研究会を行い、指導法の工夫改善を行ってきた。中学校においても、総合的な学習を中心に年間計画の見直しを行い、各教科ではコミュニケーション力の育成を力点において実践に取り組んでいる。令和5年度は、小中ともに児童生徒が学んだことを発信できる場を工夫してきたい。 コロナ禍の中、これまでリモートや人数を制限しながら行ってきた行事を、工夫をしながら徐々にもの形に戻っていった。縦割り班での清掃活動や、なわとび大会、全校レクを実施することができ、児童生徒も小中一貫校のよさを実感できている。今後も児童生徒会活動を中心とした自治的活動の充実を図りたい。 生徒指導面においては、定期的なアンケートと個別面談を実施し、丁寧な対応を行ってきた。 今後も総合的な学習で地域のよさを再認識させるとともに、教科指導や特別活動で表現力やコミュニケーション力を養い、自信をもって自らの考えや意見を発信し、行動できる児童生徒の育成に努めたい。
2 学校教育目標	<p>「感謝の心を持ち、自立に向かう子どもの育成」</p> <p>～お互いを「思いやり」、一人一人が「輝き」、小中一貫教育を通して自ら学び・考える力を伸ばし、自己実現を目指す～</p>
3 本年度の重点目標	<p>① 学力向上・外国語教育の充実(小)</p> <p>② 生徒指導と心と体の教育の充実</p> <p>③ 志を高める教育</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○単元のゴールを明確にした単元計画による授業づくりができたという教師90%以上	・コミュニケーションを図ろうとする必然性のある場面を取り入れながら、授業構成を工夫する。 ・バックワードデザインによる単元計画、及びゴールの明確化を図る。 ・一人一授業公開を計画的に実施し、職員の実践意識を高める。 ・朝のスキルタイムにおいて、国語、算数・数学、英語の基礎的な学習内容の定着、習熟を図る。	B	・単元のゴールを明確にした単元計画による授業づくりができたという教師90%以上で、成果指標の達成はできた。今後、単元のゴールの設定や単元計画づくりを、児童生徒の状況や実施に沿って、より関心が持てるものとなるよう充実させていきたい。 ・一人一授業公開を実施し、授業の参観や授業研究会を通して、指導力向上を図ることができた。 ・課題に対する自分の考えを持ち、書いたり、話したりすることで思考、表現力を高める学習活動の充実を図ってきたい。	A	・教科や単元の目標(ゴール)に向かって子どもたちが山を登るように学習していくことが理解できた。 ・先生が、お互いの授業を見合って意見交換をしたり、他校の先生の授業を見たりして、勉強されていることが分かった。評価は「B」ではなく「A」でよいと思う。
	○外国語教育の充実(小)	○外国語でのコミュニケーションを図ることに楽しさを実感している児童を90%以上にする。	・必然性のあるめあてを設定し、言語活動を中心にながら、児童が生き生きと活動できる授業構成を工夫する。 ・ALTや非常勤講師とのT.T、中学校英語教諭との連携を図り、外国語活動、外国語科における授業展開を工夫する。 ・小中連携の観点から、児童生徒会活動の中にも国際理解を意図した取組を導入する。 ・教員同士の授業参観や研修報告などを行い、校内研究の充実を図る。	A	・外国語でのコミュニケーションを図ることに楽しさを実感している児童は90%に近い数値となり、ほぼ達成することができた。「その場性」を意識した言語活動を仕組んだことで、相手に英語で伝えることの難しさを感じた児童もいたが、何と自分の思いや考えを相手に伝えようとする意識の高まりが見られた。 ・T.Tでの連携ができたことで、担任だけでは不十分なところ(英語表現や発音など)をカバーしながら授業を進めることができた。また、活動が停滞している児童の支援や正しい英語表現を紹介する役割を分担して、学習が円滑に進むよう、担任と協力しながら支援することができた。 ・全学年が公開授業を行うことにより、授業の流れや手立ての工夫、中間指導の在り方など、学年の児童の実態や発達段階に応じた外国語教育について研究することができた。また、指導と評価の一体化を意識した授業を心がけた。	A	・3・4年生の外国語活動、5・6年生の外国語科の授業だけでなく、1・2年生でも外国語に触れる時間があり、児童が楽しんで興味を高めていることは良いことだ。 ・先生が、お互いの授業を見合って意見交換をしたり、他校の先生から指導助言を受けて、勉強されていることが、児童が楽しくコミュニケーションを行うことを促進している。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権について真剣に考えることができる。(90%以上) ○道徳の授業で自分の考えを持ち、発信することができる。(90%以上) ○他者の多様な考え方をしっかり聞くことができる。(90%以上)	・各ブロック(1～3年、4～6年、7～9年)ごとに人権教室を月1回程度に実施し、感想等で振り返る。 ・考え、議論し、高めあう道徳授業の実践を進める。 ・学年の発達段階や学級の特性に適応した人権感覚を磨くために全教職員で人権教育を徹底する。	B	・1年生から9年生まで発達段階に応じて人権委員会等を実施し、児童・生徒の意見発表や先生の人権講話を受けて人権意識の向上を図っているが、相手の気持ちを思いやる言動をさらに進める必要がある。人権についてしっかりと考えることができた児童生徒は、小学校で95%、中学校で94%だった。 ・道徳の授業で自分の考えを持ち、発信することができた児童生徒は小中共に88%程度で、議論し高め合う道徳の学習活動や発問の工夫について研修を進めていきたい。 ・他者の多様な考えをしっかりと聞くことができた。小学生は90%、中学生は96%が回答している。聞いて考える姿勢が徐々に育っている。	B	・アンケートの結果から、思いやりや相手や大事にする気持ちが育っていることを嬉しく感じる。 ・多様性が求められる社会になってきている中で、子どもたちが、差別なく他人を受け入れるようになっていってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの解決、解消(100%)	・「Q-U」、「いじめアンケート」、中学生に「心のアンケート」を実施し、児童生徒理解に努める。 ・日常の児童生徒観察に努め、問題行動に対してチームで早期に対応するとともに、保護者との連携を図る。	B	・いじめ事案については、早期発見早期対応に努めており、その都度、解決を図っているが、経過観察をしながら100%の解消には至っていない。 ・いじめアンケートや「心のアンケート」を実施し、教育相談週間には一人一人との面談を行った。また、SCやSSWなどの専門家との連携にも努めた。	B	・成果指標の「解決、解消100%」は設定に無理がある。「早期発見100%」にするとよいと思う。 ・SCやSSWが助言をしてくれることはありがたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	○小学生から中学生まで一緒に生活する学校でよかったと思う(児童生徒、保護者、学校職員、地域関係者の各90%以上)。	・児童生徒の自己肯定感を高めるために、学級や学校行事の中で児童生徒が活躍できる場を設ける。 ・児童生徒が互いを認め合い、協力し合う集団作りを努める。 ・9年間を見通した特別活動を計画的に実施する。(キャリアパスポートの活用) ・6年生の卒業プロジェクトや9年生を送る会を実施することで、感謝の気持ちを伝えたり将来へ向かう志を持たせたりする。	A	・体育大会や文化発表会などの学校行事や、委員会活動を中心とした様々な取組において、児童・生徒が自ら計画・準備・実施ができる場を設け、達成感を感じ自己肯定感を高めることができてきた。 ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。小学生の85%、中学生の88%が回答した。教科の学習に限らず、行事や特別活動、日常の生活等で児童・生徒のよいところを見つけ、「褒めて伸ばす指導」を今後も心がけていきたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」と小学生の90%、中学生の80%が回答している。学芸や進路アンケートなどにより日頃から進路についての意識を高め、1年生から9年生までの長期的な視点に立ったキャリア教育をさらに進める必要がある。キャリアパスポートの活用や「先輩と語る会」等の取り組みをさらに充実させていきたい。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上(小学校60%以上、中学校80%以上)の数値で学校の実情に応じた設定) ②規則正しい生活を送っている児童生徒が80%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・休み時間の運動場、体育館の割り当てをし、施設を有効活用させることで、進んで運動する場を設定する。 ・なわとびやマラン大会等の競技会を催し、そこに向けた練習期間を工夫する。 ・9年間の発達段階に応じて、生涯健康な生活が送れるよう基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・食事に対する意識と摂取栄養素に対する知識を高めさせ、好き嫌いや、マナーを守った食事ができるようにする。	B	・授業以外で運動やスポーツを積極的にやっているという回答した児童生徒が、小学校で77%、中学校で88%いた。1週間で420分以上の時間には達していない児童も多いが、昼休みや休み時間には進んで運動したり進んでやる姿が見られた。 ・縄跳び大会に向けて、活動週間を設け、一人ひとりが目標をもって練習に励むことができた。縦割り班で長縄に取り組み、励ましたり、教え合ったりしながら協力して練習することができた。 ・「健康に良い食事をしている」と、小学生90%、中学生96%が回答した。学芸や保健、家庭科などで栄養やそのことを考えた食事のとり方について学習している。低学年からの継続的な指導を今後も続けていきたい。	B	・「健康に良い食事」について、子どもたちはどのように捉えているのだろうか。学年によって違うだろうが、給食のアレルギー対応は大変だろうが、よく対応している。「うずらの卵」など、対応が大変だろうと思う。 ・「大谷グループ」は喜んだことだろう。子どもらしく元気に遊んでほしい。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・各職員が毎日及び月の勤務時間を把握できるように、業務記録管理ソフトの有効活用を図る。 ・計画的休暇取得の推進。 ・部活動一斉中止日及び定時退勤日の設定。 ・効率的な会議の実施と整理整頓による業務の効率化。	B	・ほとんどの職員が時間外勤務毎月45時間以内である。冬期は施設時間を早め、小中別に定時退勤日を設定し、取組の意識を高めることができた。 ・事務システムポータルへの掲載を進め、毎日の掲示板の閲覧を呼びかけ、徐々に浸透しつつある。	B

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
◎志を高める教育	○地域のよさを知り、言語や文化に対する理解を深める活動の充実	○各教科の授業で、国際理解につながる学習内容を取り入れる(80%以上) ○生徒の、言語や文化に対する視野を広げる。(80%以上)	・地域の方や、外国の言語や文化に詳しい方を講師として外部から招聘し、講演を聞く。 ・異なる文化の良さや、自国や地域の良さを理解し、発信する活動を工夫する。	B	・外部講師による異文化理解の講演会や「七山探訪」等の活動を通して、七山を誇りに思う児童・生徒が増え、広い視点に立てるとともに国際理解の活動に繋げることができた。 ・体験活動や調べ学習などの成果をタブレット等を活用してまとめ、学校全体に伝える取り組みは進んだので、今後は、地域全体にも何らかの形で発信していきたい。	B	・来年度は、ようやく「国際漢流滝登り大会」が700名規模で実施される。中学生の生徒にはボランティアに参加してほしい。 ・七山体育祭や地域の行事にも、地域の一員として参加してくれると嬉しい
○危機管理	○安全・安心な教育活動の推進	○緊急連絡体制としての学校メール登録100%(全保護者)とHPの活用	・メール登録の確認を確実にし、未登録者や受信できない保護者への連絡方法を随時確認する。 ・ホームページの更新を随時行う。(1週間に1回) ・実態に応じた実効性のある避難訓練の実施。	B	・メール登録は100%であるが、内容によっては紙文書や市民センターの放送と併用して保護者への確実な連絡を図った。 ・不審者避難訓練と防犯教室を合わせて実施し、SNS使用の危険性についても考えることができた。	B	・保育園でもはなまる連絡帳がアプリに変わる。欠席連絡がアプリでできるようになりよかった。 ・下校について、学校からの文書配布の後、公民館の利用の仕方が良くなった。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・昨年度より小学校は県の外国語教育の研究指定を受け、「国際理解」を大きなテーマとして小中ともに校内研究に取り組み、研究発表会を実施することができた。授業づくりにおいては、小中共に単元計画と単元のゴールを明確化を図り、全職員の授業公開と授業研究会等を行い、指導力向上をめざしてきた。次年度は、「唐津の学びスタイル」に沿っての取組の中で、ラーニングマウンテンを活用した単元計画及びゴールの明確化を充実させ、児童生徒の思考力、判断力、表現力を高め学力向上を図ってきたい。 ・コロナ禍の中での各種の制限がなくなり、各行事や体験活動等を以前のように実施することができるようになった。体育大会や文化発表会など、保護者や地域の方に多数参観していただくことができた。縦割り班での清掃活動や全校レク、児童生徒会によるボランティア活動など、児童生徒も小中一貫校のよさを実感できている。今後も児童生徒会活動を中心とした自治的活動や体験活動の充実を図りたい。 ・生徒指導面においては、定期的なアンケートと、教育相談週間を設け個別面談を実施し、SCやSSWなどの専門家と連携し、丁寧な対応を行ってきた。未然防止に努め、学級経営や組織的な生徒指導の充実を図りたい。 ・総合的な学習で地域のよさの再認識や異文化理解を図り、郷土愛や国際理解を深めることができた。今後も、教科指導や特別活動とも関連させながら表現力やコミュニケーション力を養い、自らの考えや意見を発信し、行動できる児童生徒の育成に努めたい。</p>
----------------	---